

2019 年（5 月から 9 月）の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員について、2019 年 5 月から 9 月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 2019 年 5 月から 9 月の全国における熱中症による救急搬送人員の累計は 71,317 人でした。これは、昨年同期間の救急搬送人員 95,137 人と比べると 23,820 人少なくなっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、初診時における傷病程度別等の内訳は次のとおりです。
 - 救急搬送人員の年齢区分別では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児の順となっています。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度別にみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
 - 発生場所別の救急搬送人員をみると、住居が最も多く、次いで道路、公衆（屋外）、仕事場①の順となっています。
 - 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員は、鳥取県が最も多く、次いで鹿児島県、岡山県、福島県、岐阜県の順となっています。
- 報道資料の入手方法
報道資料については、総務省ホームページ（<http://www.soumu.go.jp>）の「報道資料」欄及び消防庁ホームページ（<https://www.fdma.go.jp/>）に、本日（6日（水）14時）を目途に掲載します。



（連絡先）
消防庁救急企画室
担当：三島、増田、新井
電話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7532